

関係各位



国際審判員 上田良史
(兵庫県所属 審判スタッフ)

2017 Asian Rowing Junior Championships and Asian Qualification Regatta for
2018 Buenos Aires Youth Olympic Games 大会参加報告

2017年10月11日(水)～14日(土)にシンガポールにある Pandan 貯水池で開催されたアジアボート連盟主催の 2017 Asian Rowing Junior Championships and Asian Qualification Regatta for 2018 Buenos Aires Youth Olympic Games、以下「アジアジュニア」)に審判として参加しましたので以下の通り報告します。派遣して頂きました日本ボート協会の関係各位にこの場を借りて御礼申し上げます。

1. 審判員メンバー

予定されていたメンバーは下表の通りだが、備考に記載した通り、実働は審判長以下 14 名であった。

	Name	Nation	L. Nr	備考
President	Takao SENDA	JPN	1230	
V. President	Bing LIANG	CHN	1503	欠席
	Suzanna Binte SAID	SGP	1710	
Members	Zhigang LI	CHN	1355	欠席
	See Hung NG	HKG	1369	
	Tze Yang LO	HKG	1732	
	Muhammad ASSYIDIQ	INA	1622	
	Asma NIKVER	IRI	1653	
	Tadashi UEDA	JPN	1760	
	Jae Hyung KWON	KOR	1638	
	Harith MOHD NASIR	MAS	1698	
	Mon Mon KHAING	MYA	1655	
	Bo Bo TUN	MYA	1705	
	Jercyl LERIN	PHI	1493	
	Roozaimy OMAR	SGP	1557	OC に専念
	John SAPAN	SGP	1711	
Sevara GANIYEVA	UZB	1579		

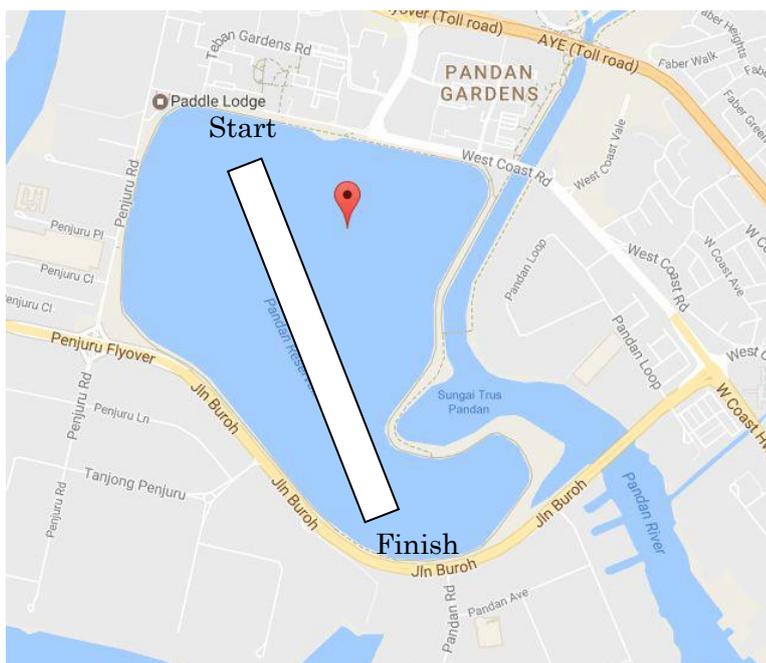
なお、参加 14 名のうち、女性は 6 名であった。

また、ARF 大会では ARF 審判長の、Bing LIANG 氏が審判長を勤めるのが通例であるが、本大会は来年ブエノス・アイレスで行われる Youth Olympic Games (FISA 大会)の予選を兼ねているため、FISA 審判委員の千田隆夫氏が審判長を勤められた。

2.大会概要

(1)コース概要

シンガポール西部海寄りにある Pandan 貯水池のほぼ中央を使用して行われた。0 レーンから 7 レーンの 8 レーンあるが、特筆すべきは直線 1900m しかないと代表者会議で公表されたことである。これに伴い、最初の 250m の距離表示も 150m というようになった。



(2)大会日程

10月11日：予選、Preliminary Race	20レース（午前10、午後10）
10月12日：予選、敗者復活	12レース（午前4、午後8）
10月13日：敗者復活、準決勝、Preliminary Race	14レース（午前7、午後7）
10月14日：決勝	19レース（午前9、午後10）

通常 4 日間の大会であれば、それぞれの日が予選、敗復、準決勝、決勝に割り当てられるべきであり、当初の予定もそうになっていた。しかしながらこの大会では、4 人乗りの艇が不足しており、1 つの艇を複数のクルーでシェアしなければならない必要が生じたため、一部の予選、敗復、Preliminary Race が他の日にずれ込むことになった。

(3)種目及び参加クルー数 (人数)

Events	Crews	Athletes
JM1X	21	21
JM2-	8	16
JM2X	15	30
JM4X	7	28
JM4-	6	24
JW1X	19	19
JW2-	4	8
JW2X	13	26
JW4X	7	28
JW4-	4	16
Total	104	216

実数。ただし JM2X の SGP は棄権したので、実際は 14 クルー。

JM1X、JW1X の上位 3 クルー、JM2-、JW2- の上位 1 クルーは来年の YOG に出場

(4)参加国

25 カ国※：10 月の FISA 通常総会で加盟国となったカンボジアも参加。ブレードカラー、ユニフォームは WhatsApp (後述) で審判員に共有された (下図。実際は Blade1 が使用された)。

※BAN, CAM, CHN, TPE, HKG, IND, INA, IRI, IRQ, JPN, KAZ, KOR, LBN, MAS, MDV, MYA, NEP, PAK, PHI, KSA, SGP, SRI, THA, UZB, VIE



3.審判各部署の業務・設備等

各部署の人員配置と業務・設備は以下の通り。

(1)審判部署別人数及び補助員（NTO 含む）業務

部署	審判人数	補助員（NTO 含む）業務	補助員人数
President of Jury	1名		
Starter	1名		
Assistant Starter	1名		
Judge at Start	1名	Aligner, Boat Holder	1名+約8名
Resp. Judge at Finish	1名	写真判定 Start・Finish ボタン操作	2名 (IMAS)
Judge at Finish	1名		
Umpire (4)	4名	カタマラン操縦	4名
Resp. CC	1名	受付、Bow Number 交付	2名
CC Out pontoon	1名		
CC In pontoon	1名	Boat Weighing への誘導	2名
Boats Weighing	1名	(未確認)	(未確認)
合計	14名		約19名

(2)発艇

Starter の業務：呼び込み、発艇号令、水面監視

Assistant Starter の業務：呼び込み補助

【設備】

発艇塔：平屋建てでポンツーンよりやや高い程度。塔とは言えない高さ。

2分前のイエローランプはあるが、時計・黒板・レース番号表示はなし。

スタートシステム：ドイツ IMAS 社のもの。赤ランプ・発艇号令・フォルススタート、全て液晶タッチパネルで行う。液晶には発艇定刻とそれまでの残り時間が表示されている。国名の他、各国の国旗も表示されていたが、これはブレードカラーのほうが良いと思った。



液晶パネルの画面

マイク：呼び込みやロールコールは全てマイクで行った。



予備：スタートシステムのトラブルに備えて、赤旗と鐘が用意されていた。

(3)線審

Judge at Start の業務：Aligner と共にスリットを覗き、艇が揃ったと判断すれば白旗を揚げる
フォールスタートであると判断すれば赤旗を振って発艇及び主審に知らせる

【設備】

線審小屋：ポンツーンと同レベルの高さ。スリットと対岸に見通し板。

旗：白旗と赤旗

なお、このレガッタでは自動発艇装置 (Alignment control mechanism) もフリーズ画面 (Freeze frame facility) もなかったのので、業務はほぼ戸田の大会と同じであった (スタートをハンディビデオで撮影していたようだが)。

ボートホルダーは各フィンガーに一人ずついるが、フィンガーを前後するハンドルを回す係の人は 2 名ほどしかいなかった。

警告を与えられた場合は、イエローマーカーを各フィンガーの根元部分のポールに立てていた。

(4)主審

主審艇は 4 艇で、待機位置は 0m (3 レーンと 4 レーンの間に主審艇を納めるピットがある)、500m、1000m、1500m。付きかたは通常の Dynamic Umpire (Zonal Umpire ではない)。

【設備】

カタマラン：ヤマハ製や桑野製と思われるカタマラン。日本と変わらない。

赤旗・白旗・鐘・メガホン：日本と同じ。メガホンは大きさがまちまち。

ドライバーは国際審判員資格保持者もいれば審判員資格も持っていないような方までいろいろ。



3レーンと4レーン間のピット



カタマラン

(5)判定

Resp. Judge at Finish の業務：IMAS 社のオペレーターがモニター画面上の着順を素早く次々と確定していくので、同じ PC に繋がっている別のモニター画面に向かって座り（決勝線は見えない）オペレーターの操作過程を確認した上で、IMAS が印刷して手渡してくれる **Result Sheet** の内容を確認の上でサインをして「Race 15 (Fifteen), Official !」と叫ぶ。

Judge at Finish の業務：決勝線上に座り、各クルーが通過する瞬間に通過順を「2!3!5!4!1!6!」のように大声で叫ぶと同時に、フーター（圧縮空気で鳴らすラッパ状のブザーのようなもの）を鳴らす。

【設備】

判定塔：陸に固定されている水上設備。よって大きな波があったりすると揺れる。水面とほぼ同レベル。

コースはかなり遠く、スリットがない。よって **Judge at Finish** は「適当な」タイミングでフーターを鳴らすしかない。

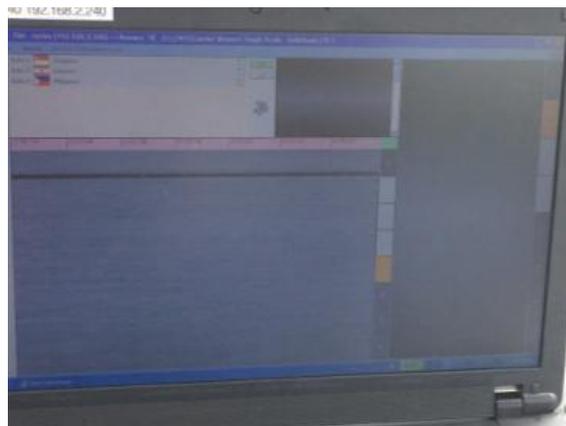
フーター：電気式のブザーがないため使用。そのため、判定塔の外に出で鳴らさねばならなかった。

写真判定装置：IMAS 社のもの。オペレーター2名が常駐。

バックアップ：2日目以降はマニュアルの計時をバックアップとして使用していた模様。



判定塔（左が ITO、右2人が IMAS スタッフ）



写真判定画面



判定塔内部



判定用具（赤いラップ状のフーターを使用）

(6)監視長

逆 L 字型の棧橋（縦方向が出艇棧橋、横方向が帰艇棧橋）の根元に位置し、監視部署全体（出艇監視、帰艇監視、艇計量）を統括。無線で各部署とのやりとりを行う。

(7)出艇監視

クルーが艇を水面に下ろす前後に声をかけ、以下の項目をチェックする。

- ①クルーメンバー：フォトブックもタブレットもなかったら、ID カードで照合
- ②靴：安全性が新ルール（※1）に適合しているかどうか
- ③バウボール・バウナンバー：正しく取り付けられているか
- ④ユニフォーム：クルーは統一されているか、広告等に違反はないか
- ⑤ブレード：登録されているものか
- ⑥ステッカー：表示する順序（※2）に間違いはないか
- ⑦出艇時刻。1つのレースの全クルーが出艇したら、監視長に報告。

※1：踵が艇と水平レベル以上に上がってはならない（×ヒールロープが 7cm 以下）

※2：バウ側から、FISA→ARF→国コード

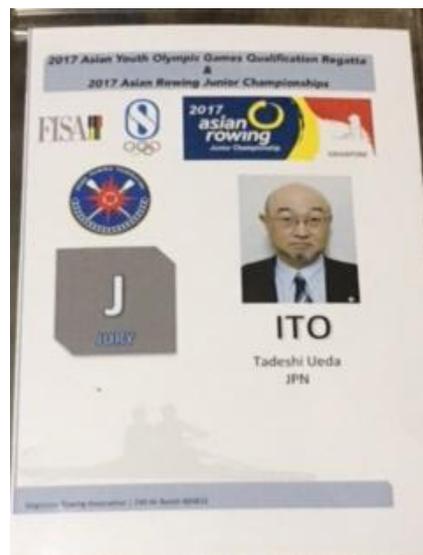
Race 20: Heat 1 - (7) (JM2-) Junior Men's Pair			
1	AKSHAT, Akshat	LUCKY, Lucky	
2	CHUNG, Wei Ting	HUANG, Po-Heng	
3	YIN, Zhixi	YU, Tianyi	
4	WONGPIN, Swakorn	DEENOI, Nawamin	

Race 21: Heat 2 - (7) (JM2-) Junior Men's Pair			
1	WONG, Hui Kit	AREUC, Mehmet Emin	
2	KIROCHKIN, Artyom	VERMATOV, Abdurashid	
3	KARAB, Kamran	SAFAEI, Shahrooz	
4	TULKINKHJAEV, Sedor	TURDIEV, Alisher	

Race 22: Preliminary - (9) (JW4-) Junior Women's Four			
1	NEEGREE, Nisaphin	SRSIWANNAPAT, Kingka	
	PITAKPAOTHAI, Thilade	UAREE, Ararat	
2	SWAIN, Sonali	HASTI, Jharana	
	XESS, Deepika	SINGH, Yamini	
3	HUSSAIN, Aslem	KHAN, Myra	
	COWASJEE, Myra Nader	ASAD, Nehan	
4	YANG, Jing-Shiuan	LIN, Chia-Yi	
	WAN, Shih-Wai	CHEN, Chao-Jung	

10/10/2017 11:56:24 AM

スタートリスト（名前入り）



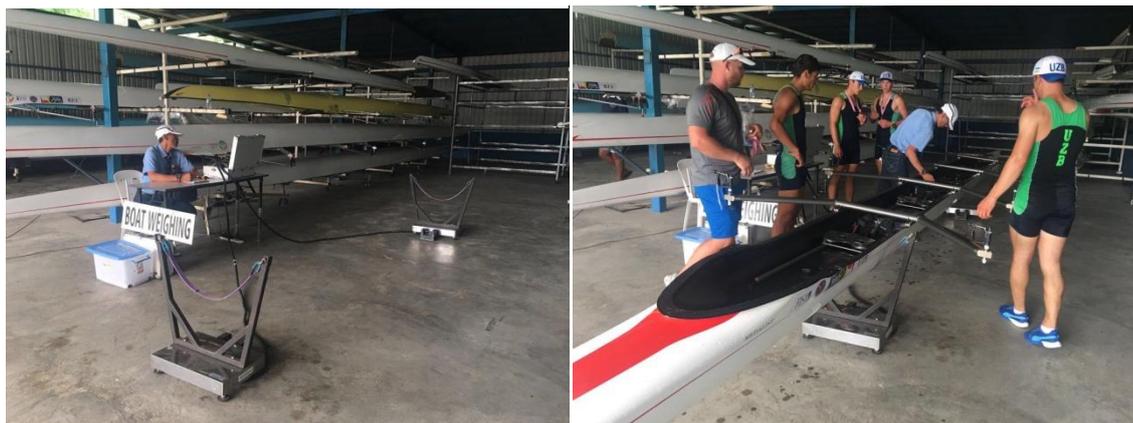
ID カード

(8) 帰艇監視

帰艇棧橋の根元に位置して、帰艇時刻を記録。審判長が指定した艇計量対象クルーに艇計量であることを告げ、誘導係の NTO に引き渡す。

(9) 艇計量

今回実務を見る機会には恵まれなかったが、前日の予備計量を見ることができた。戸田よりやや簡易な印象を受けたが、やっていることは戸田とほぼ変わりはない。



4. 部署配置ならびに特記

小職に割り当てられた部署配置は下表の通りである。

	午前	午後
10月11日	CC In pontoon	Starter、Assistant Starter
10月12日	Judge at Finish	Umpire 1
10月13日	Umpire 3	CC Out pontoon
10月14日	Judge at Start	Umpire 3

10月11日

午前には帰艇棧橋だったが、仕事が始まるまでは出艇棧橋を手伝う。スタートリストの名前の綴りと ID カードの綴りが違うものが 1 名あった (スタートリストが正しい)。監視長に報告し、後日の注意事項とした。帰艇棧橋では棧橋根元で、"Boat Weighing" と声を掛けるのだが、台湾クルーには英語が通じなかったようで、身振り手振りで伝えようとしていたところ、出艇棧橋にいた香港の審判員が中国語で伝えてくれた。当たり前であるが、どこで審判をやっても連携は大切である。

担当ではなかったが、無線で「主審艇が沈みかけている」という連絡が入った。実際追行が不可能になったようで、残りの主審艇でなんとかレースをやりくりした。主審艇が水没する問題は前日から顕在化しており、メンテナンスの不十分さが伺えた。

午後は発艇アシスタントから始まって、途中で発艇員と交代。6 杯レース、5 杯レースはスタートリストのレーン番号と同じレーン番号を割り当てていたが、4 杯レースではスタートリストの 1 から 4 レーンに 2 から 5 レーンを割り当てた (「2」のバウナンバーを付けているクルーに、「〇〇、レーン 3」とコ

ールする)。クルーもやや困惑した様子で、こちらが割り当てたレーン番号ではなく、自身のバウナンバーと同じレーンに付けたりしたため、スタートが若干遅れた。以降は呼び込みのアナウンス（「〇〇、レーン 3」）を何度か繰り返して、正しいレーンに誘導することができた。

これも担当ではなかったが、第 15 レースでは判定部署内で計時システムのケーブルコネクタが外れたとのことで、全艇のタイムが取れなかった。このため翌日からは、バックアップのため無線で発艇号令を飛ばすこととした。

10 月 12 日

午前は判定員であった。前述の通り電気ブザーがないため、フーターを屋外で鳴らすしかなかった。したがって通過順を叫んでも屋内には届かないため、判定長も屋外で通過順を見ることになった。写真判定は IMAS のオペレーターが屋外に持ってきて、判定長はそこでサインをしていた。状況に応じて臨機応変に対応するという事だろう。

午後は主審艇 1 であった。ドライバーは国際審判員で、特に問題なく業務を行った。ただ第 35 レースの JW2X 敗復では、2 レーンが 500m 程度遅れており、判定からは「待った」がかかっていたにも関わらず発艇させてしまうという事象があった（すぐレースを止めた）。

10 月 13 日

午前中は主審艇 3 であった。白旗で警告を何度か与えた程度で、特に問題はなかった。

午後は出艇桟橋で、この日の朝合格したての審判員が手伝ってくれたので、業務はかなり楽であった。私が担当したクルーではなかったが、メンバー変更がスタートリストに反映されていないというシステム上のミスがあった。

10 月 14 日

午前中は線審であった。アライナーの NTO が次々と艇を揃えていくので、揃った時点で白旗を揚げる。発艇定刻までには艇を揃えてくれたし、フォルススタートは 1 つもなかった。

午後は主審艇 3 であった。特に問題はなかったが、最終レースに付く予定であった主審艇 2 が急に故障したと無線で連絡が入ったため、代わりに付くことになった。

5.所感、他

昨年 4 月に国際審判員の資格を取得し、今回がデビュー戦であった。今回のレガッタに関し、思うところを数点述べたい。

千田審判長によると、「ハード面はかなりましになった」ということだが、前述した通り、距離は 1900m でお世辞にも真っ直ぐとは言えないコース。塔であるべき建物は高さ不足の感が否めない。主審艇は故障しがち、等々、なお改善が望まれる部分が多々目についた。まさか日本で同じことがあるとは思わないが、油断は禁物であると思う。

あと、発艇エリア、判定エリアともにボートで渡されるような場所であったが、どちらにもトイレはなかった。当然であるが、あるほうが望ましい。

ソフト面では以下の通り。

- ①トランスポート：空港で待たされる、または迎えが来ない審判員が少なからずいた。空港までの送迎以外にも、会場と宿舎の往復など「いかに待たさず輸送するか」は重要であると感じた。
- ②システム技術者：今回のレガッタを担当した技術者（2名）はお世辞にもレベルが高いとは言えなかった。実際、レース前日のコース検分時にはスタートにもフィニッシュにも何の機材も設置されていなかった。よってテストスタートもできなかった。ケーブルのコネクトが外れていたのは前述した通りだし、噂によると若い方の技術者は写真判定のカーソルをバウボールの「真ん中」に合わせようとしていたらしい。日本で国際大会を開催する際には腕利きの技術者を雇っていただきたいと思う。
- ③主審艇操縦者：国際審判員免許保持者の場合、こちらが指示しなくとも適切な位置に主審艇を付けてくれるのでありがたい。
- ④ボートホルダー：フィンガーを前後させる担当者がポンツーンに2名ほどしかいなかった。やはり各フィンガーに1名いたほうが安心できるし素早く揃えられる。
- ⑤暑熱対策：30℃を超える暑さであったにも係わらず、室内のエアコンが稼動することはほとんどなかった。カタマランは日本と同じ屋根なしのもの（各地には屋根付きのカタマランもあるらしい。どちらがいいかは議論の余地があるだろう）。水だけは十分に用意されていた（ただし冷えていない）が、塩分対策はとられていなかった。
- ⑥食事：最終日の昼食以外は宿泊するホテルでの食事となった。朝食はビュッフェスタイル、昼食と夕食はメニューが同じで、鶏肉料理・魚料理・野菜料理から1つ選ぶという形式であった。豚肉と牛肉は提供されず、各種宗教に配慮しているのだなと思った。
- ⑦WhatsApp：準備段階で組織委員会からのメールの中に、「より速いコミュニケーションのためにWhatsAppを使おうと思う」という一文があった。何かと思って調べてみると、全世界版の「LINE」であった。早速インストールして使い始めると、前述したカンボジアの情報だとかバスの予定時間だとか、どうでもいい自撮り写真とかが送られてきた。便利であるが、「誰が未読か分からない」というのはLINEと同じで、危険な面もあると思う（「既読〇」という機能もない）。

その他

- ①ユースオリンピック予選ということで、ドーピング検査が行われた。おそらく1Xと2が対象だと思われるが詳細は不明（秘密）。FISAスポーツ医学委員の日浦幹夫氏が来新されていた。
- ②大会と並行してFISA審判員試験と審判員セミナーが行われた。審判員試験では7名の受験者（全員女性）のうち、4名が合格した。日本からは山崎佳奈子氏（東京）と市川愛氏（滋賀）が受験し、両名とも見事合格されました。おめでとうございます。あと2名は香港とシンガポールのかた。

6.終わりに

今回初めて国際審判の任務に就くにあたっては、大きな不安と緊張を感じていたが、終わってみるといくつかの後悔の念と大いなる達成感に変わっていた。反省すべき点については次回以降の大会に活かしていきたい。

参加していた審判員やボランティアは皆さん優しくフレンドリーで、かつ、東京オリンピックに対する関心も高かった。「呼ばれればボランティアに行くよ」と言ってくれる人も少なからずいた。こういう

「ボランティア慣れした」人々の活用を考えるのも（交通費自腹で来てくれるなら）ありかなと思った。

今後控える 2019 年の世界ジュニア、2020 年の東京オリンピックに向けて、私自身少しでもお役に立てるよう、これからも努力していきたいと思う。

最後になりましたが、今回大会に参加する機会を与えていただきました、公益社団法人日本ボート協会 流石審判委員長、千田国際委員長、相浦事務局長、事務局国際担当 藤田様に心より感謝を申し上げます。

以上

以下、掲載し損ねた写真を掲載します。



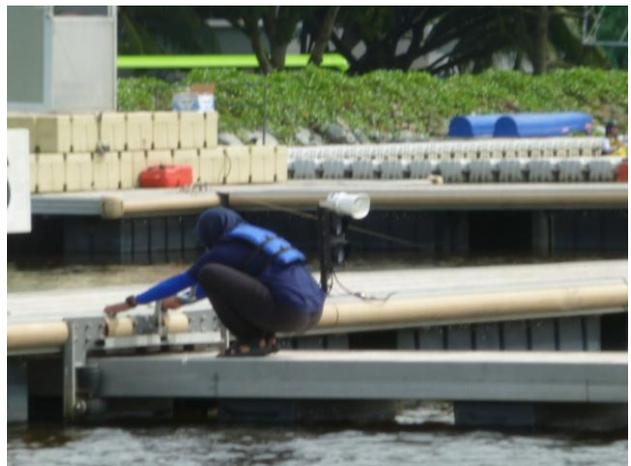
コースブイ（曲がって見える）



線審小屋



ハンドルを回して前後させる



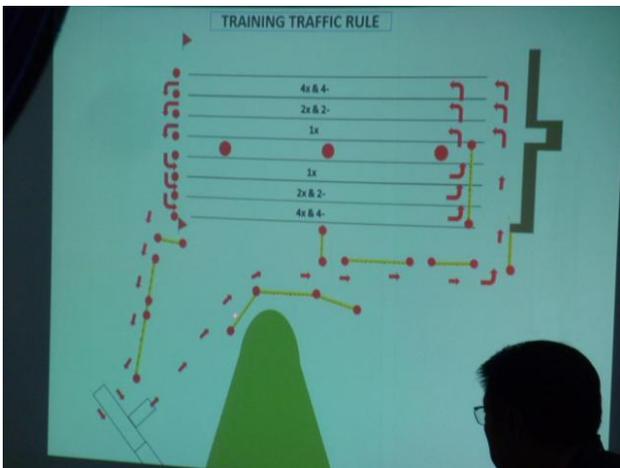
実施状況



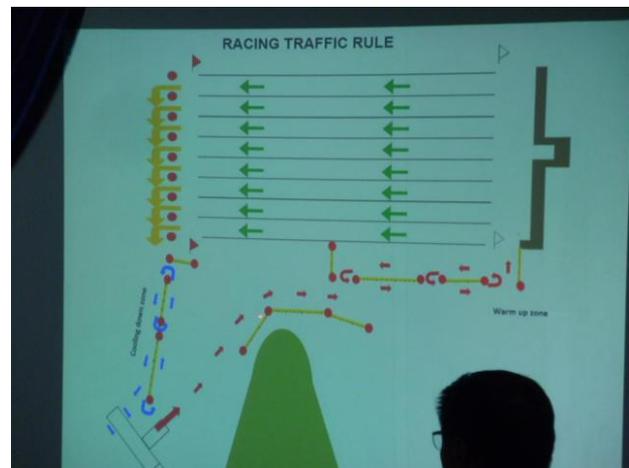
栈橋 (手前が帰艇、向こうが出艇)



艇計量表示 (プリンター付)



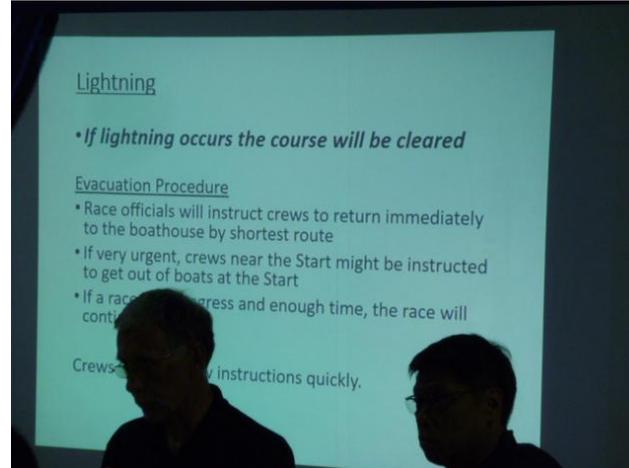
航行ルール (練習時)



航行ルール (レース時)



代表者会議



雷時の対応説明



Board of the Jury の掲示



合格者の皆さん
(右から 2 人目が山崎氏、左から 2 人目が市川氏)



審判員集合写真